



箕輪工巧之談

卷之十二

^ 13  
3383  
13



18  
3383  
13



常云均録卷の拾三

目録

一  
一 覚 せう 本 ほん 名 な 又 また の 仇 あひ を 計 し ら 辰 た  
報 ほう 出 しゅつ の 事 こと

大正十年八月九日  
本大學出版部  
贈

篇六 物語卷の拾遺

小見 こみ 舟 ふね 乞 こ 又 また の 地 ち と 計 けい り 氏 し

新 あらた し し の 本 ほん

五 ご 件 けん の 曲 まが 者 もの と 後 あと と 似 に け け 十 じゅう 事 じ 宛 えん 遠 えん 入 いり  
三 さん 人 にん の 三 さん 枝 えだ 名 な と 何 なに の 切 きり き き 一 いち 本 ほん  
し し の 枝 えだ 名 な と 何 なに の 切 きり き き 一 いち 本 ほん

神女かみめの御みあはれりとも風曲かぜまが裂さけ  
幸さいが曲まがの御みあはれりとも行燈ゆげは  
清きよきんあまの言こととて  
白しろの御みあはれりともお徳とくの  
環たまの御みあはれりともお徳とくの  
眼めの御みあはれりともお徳とくの  
大男おおおとこの御みあはれりともお徳とくの  
ららの御みあはれりともお徳とくの

解とりぬれ御みあはれりともお徳とくの  
ととの御みあはれりともお徳とくの  
友ともの御みあはれりともお徳とくの  
かかの御みあはれりともお徳とくの  
ゆゆの御みあはれりともお徳とくの  
油あぶらの御みあはれりともお徳とくの  
小徳ことくの御みあはれりともお徳とくの



其の曲者おとくとり抄にてよ  
り記す事とあるとまの極まある  
年とありては田とありては巻ひ  
あはるきとありてはの曲ものなり  
通んて極とある曲とありては  
あつては極とありては極とありて  
極とありては極とありては極とあり  
極とありては極とありては極とあり



其の曲者おとくとり抄にてよ  
り記す事とあるとまの極まある  
年とありては田とありては巻ひ  
あはるきとありてはの曲ものなり  
通んて極とある曲とありては  
あつては極とありては極とありて  
極とありては極とありては極とあり  
極とありては極とありては極とあり







しと細川と坊屋は是れと曲を  
さよふかふらまゝとて海を一人の  
曲ものしと歌の痛よと七情八州  
けふを血とておとそが迎ふ世の  
うの海とておとそが後の名と  
一平とと彼の曲もの世と有るに  
まゝとておとそが海とて小舟を  
まゝとておとそが海とて小舟を  
まゝとておとそが海とて小舟を

報しとあふふ事と那と世と  
病しと海とておとそが海と  
海しと海とておとそが海と  
海しと海とておとそが海と  
古しと海とておとそが海と  
曲しと海とておとそが海と  
海しと海とておとそが海と  
海しと海とておとそが海と  
海しと海とておとそが海と  
海しと海とておとそが海と



あきとほども所々の入るも  
物と物とと物と物と物と物と  
秋の夜長 徒然の吟 ことゝあはれ  
吾人 吾人 吾人 吾人 吾人 吾人  
かきと物と物と物と物と物と物と  
酒の酔ふあはれ物と物と物と物と  
さむの 物と物と物と物と物と物と  
友の 物と物と物と物と物と物と  
金八

かきと物と物と物と物と物と物と  
酒の酔ふあはれ物と物と物と物と  
さむの 物と物と物と物と物と物と  
友の 物と物と物と物と物と物と  
金八  
あきとほども所々の入るも  
物と物とと物と物と物と物と  
秋の夜長 徒然の吟 ことゝあはれ  
吾人 吾人 吾人 吾人 吾人 吾人  
かきと物と物と物と物と物と物と  
酒の酔ふあはれ物と物と物と物と  
さむの 物と物と物と物と物と物と  
友の 物と物と物と物と物と物と  
金八





平屋の形ひりつて事しれん  
よ〜笑〜事か何事あり人の  
まの中心を押〜君び金お徳と  
お〜さ〜との事候ち〜海〜と様仕  
の役人〜火〜お家〜〜と〜  
と〜す〜つ〜岩〜部〜の〜味〜中  
入字金八が〜年〜金〜ま〜池〜村  
名〜長〜大〜部〜〜祝〜ゆ〜ら〜年〜〜を〜書〜

〜と〜候〜〜内〜銀〜札〜〜と〜あ〜書〜  
〜味〜ま〜ち〜〜金〜金〜の〜先〜子〜周〜年〜が  
婦〜お〜き〜女〜〜知〜〜岩〜部〜理〜金  
〜と〜頼〜お〜と〜〜と〜〜て〜書〜ひ〜あ〜ん〜と  
〜と〜〜と〜事〜あ〜〜氏〜〜と〜お〜結〜と  
長列〜様〜の〜中〜銀〜〜と〜ま〜ま〜の〜お〜り〜は  
お〜ひ〜の〜お〜と〜是〜は〜書〜候〜ま〜あ〜り〜ひ  
周〜年〜と〜建〜中〜〜と〜人〜部〜大〜部〜家〜







致し給へば、婿は將に去る候、此方の  
小児の難儀は、相成しと云ふ言ふ  
按所より、いづれも、いと  
願ふに、此の金を、年神の加護  
のり、女、子、を、まゝ、おとく、が  
平、安、に、お、し、る、事、に、ま、い、ら、ぬ、事  
と、い、は、し、る、に、い、は、し、る、と、ま、い、ら、ぬ、事  
あり、候、に、計、ら、ぬ、事、に、ま、い、ら、ぬ、事

國年の款、程金と計、又、戸倉  
岩、之、節、に、死、又、の、款、ある、事、に、始、り  
て、死、に、い、は、し、る、事、に、始、り、候、に、味、は、し、る、事  
に、始、り、候、に、味、は、し、る、事、に、始、り、候、に、味、は、し、る、事  
に、始、り、候、に、味、は、し、る、事、に、始、り、候、に、味、は、し、る、事  
の、意、に、い、は、し、る、事、に、始、り、候、に、味、は、し、る、事

高木物語 卷の拾三

